

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

祖父と十二パーセントの減税

福島大学附属中学校 三年 紺野 莉矩

「昔は物品税と言う税があって十五パーセントも税金を納めていたんだ。」
貴金属店を営んでいた祖父が教えてくれた。

「どういう事だろう。」今、消費税は十パーセントだけれどそれよりも5割増しの税率だ。「昔はそんなに税金を多く納めていたのか。」びっくりしている僕に祖父が言った。

「昔はまだ消費税はなくて、贅沢品にだけ物品税という税金がかけられていたんだよ。」

祖父の話聞いて僕は物品税について調べてみた。物品税は昭和十二年に貴金属などの贅沢品に十五パーセント課税されたのが始まりでその後昭和三十七年に改正され、平成元年に消費税が導入された事で廃止された。課税対象は多岐にわたり貴金属をはじめ自動車、毛皮、テレビ、楽器、家具等多くの贅沢品に課税され自動車は三十パーセントもの課税がされていた。

物品税について調べて不思議に思った。

「テレビは贅沢品なのか。」今の時代テレビがない家は殆どない。自動車も僕が住んでいる地方では生活必需品だ。物品税が導入された戦前から戦後暫くはテレビや自動車を買えるのは極わずかの富裕層の人達だった。けれど今はそうではない。物品税が廃止され消費税が導入されたのにはこういう時代の変化があったのかもしれない。またもう一つの理由として物品税は税収が安定しないという事がある。景気が良い時は高価な宝石や高級車がたくさん売れて税収も増えるが景気が悪くなると生活に必要な贅沢品は売れなくなり税収が大幅に減ってしまう。景気が悪くなっても必要な税金が減るわけではない為税収が不足してしまう。

税金は医療費や高齢者の年金、道路の整備や公共施設の整備等、僕達がより良い生

活を送るために使われている。安定した税収を維持する為には時代に則した税制の改正が必要だ。三パーセントの消費税が導入された時、世の中の多くの人にとっては増税だったが祖父にとっては十二パーセントもの大減税だった。贅沢品への十五パーセントの課税が時代にそぐわなくなっていたからだ。

近年実際に地球温暖化の為の税や国際観光旅客税等今の時代に必要な新しい税金が導入されている。時代に合わない物は廃止され、より必要な物へと変わっていく。こうして僕達の生活の質は向上していく。

「十五パーセントの税金を納めるのは大変だったけど戦後の何もない時代からこんなに豊かな国になったのは皆が一生懸命働いてきちんと税金を納めたからなんだよ。」

と祖父は言う。僕も将来きちんと納税し、納めた税金がどの様に使われてどんな事に役立っているのか。その税金は時代に合っているのか。新しく導入されるべき税金はないのか。僕達の生活の向上に直結する税金に関心を持ち続けていきたい。